

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
第一回本会議

令和 6 年 5 月 8 日(水)

(議事次第)

議題

- 1 令和 6 年度議長団選挙
- 1.1 議長選挙
- 1.2 副議長選挙

タイムテーブル

当日の時刻	予定した日程	当初予定
18:30	開会	
18:30~18:37	出欠確認・資料確認	15 分間
18:37~19:05	議長選挙	45 分間
19:05~19:21	投票	
19:21~20:35	副議長選挙	60 分間
20:35~20:47	投票	
20:47~20:54	その他諸連絡	10 分間
21:00	散会	

出席者

学類等代表者 59 名 詳細省略

資料一覧

- ・議事次第

議題 1

- ・「令和 6 年度議長団選挙について」

…P24001-01

- ・学長決定「筑波大学の学生組織について」

…P24001-02

- ・副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」

…P24001-03

以下、議事録

開会

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

これより、令和 6 年度第一回本会議を開会する。

出席確認・資料確認

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

出席者を確認する。慣例に基づき、読み上げられた学類に在籍する代表者の挙手を以て出席とする。

円滑な議事進行のため、参加者においては、適宜資料を確認されたい。

出席確認の詳細は省略

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

学類等代表者の出席者は 59 名である。本会議の充足数を満たしたことを確認した。

議題

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

議事次第に則り、本日は令和 6 年度議長団選挙を行う。議長団選挙の細則については P24001-01 に書いてあるので参照されたい。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

まず議長選挙から始める。議長に立候補される方は挙手願いたい。

近藤拓未が挙手を以て、立候補の意思を表明する。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

ありがとう。他に立候補する方がいなければ、議長選挙の立候補演説をしてもらって、投票に移りたい。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

それでは、情報科学類、近藤さんお願いする。

（注：議長演説は発言の意図を反映するため敬体とする）

○近藤 拓未（議長候補）

みなさん、はじめましての方ははじめまして、知っている方はありがとうございます。情報科学類3年の近藤拓未と申します。議長に立候補いたしました。今回は議長選挙ということでまず自分の話をさせてください。そのあとに全代会に今、自分がどんな風に見てきたのかを話し、最後に公約を出させて頂こうと思います。よろしくお願いいたします。

改めまして自己紹介をさせてください。情報科学類3年の近藤拓未です。基本、学内行事委員会という場所にいます。三系の朱入れなどをしています。ほかにも国際特別委員会と情報処理推進特別委員会というところにもいます。1年生の時は学園祭実行委員会の総務局にいました。主に、募集要項の朱入れなどを行っていました。2年生でクラス代表者会議の議長になると、3年生でも同じように議長を務めています。昨年度自分が全代会で行ったこととしては、International Day2023という、留学生団体が一同に会するイベントの運営を国際特別委員会の委員としてさせていただいたということがあります。また昨年度3月に開催された、2020年度筑波大学入学式の当日の現場統括も行いました。ここまでいろんなことを行ってきましたが、そんな僕が見てきた全代会についてお話しさせてください。全代会はとても素晴らしい組織だと思います。昨年度の議長団をはじめ、様々な構成員、大学、ステークホルダーのおかげで活動が安定化し、構成員は増加、知名度も上昇しました。生活課の方はタスクがいっぱいだと言っていました、全代会も活動の幅を広げています。

そのような全代会にどのような 이슈、課題が存在するのかというと、タスク量が莫大に増加したことがあります。委員長陣をはじめ、委員会はたくさんの仕事を抱えています。そこで重要になるのが、構成員のモチベーションの維持です。もちろん、全代会はいろいろやらなければいけないことがたくさんあるのですが、それだけでは組織は動きませんから、そのなかでどのように楽しみを見つけてもらうか、自分がどのように楽しむかを考える必要が出てきました。

ここまで、全代会の今について話してきましたが、そんな僕が掲げる公約は「やりがいも。充実も。」です。この言葉に込めた意味は、構成員のモチベーション維持、構成員はたくさんのタスクを抱えている中で、どのようにやりがいを見つけてもらうか。もう一つは委員会活動を超えた活動の促進、こちらについては後で説明させていただきます。

まず構成員のモチベーション把握、これは先ほどから何度も話していますが、構成員が何をやりたいのか、どんなことが楽しいのか。委員会が今どんなタスクを抱えているのか、どんなプロジェクトが進行しているのか、その中でタスクの負担を軽減するにはどうすれ

ばいいのか。そんなことを常に考える、そんな議長でありたいと思っています。そしてもう 1 点、委員会活動を超えた活動の促進です。全代会は仕事だけではつまらない組織になってしまいますから、どう楽しんでいくか。例えば、他の構成員と関わる機会をどうしたら増やしていけるか、全代会全体に関わるプロジェクトを何か作っていけないか、そんなことを 1 年間かけて見つけ、実行し実現していきたいです。

改めて「やりがいも。充実も。」そんな全代会にしていきたいと思います。議長候補の近藤拓未でした。ありがとうございました。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

それでは、これから 5 分間質疑応答の時間にさせていただく。質問・意見・疑問等があれば 48 分までに手を挙げていただきたい。地球学類、梅基さんお願いします。

○梅基 結（地球学類）

構成員のやりたいことと現在のタスクの把握であるが、どのようにタスクを把握していくのか具体的な方法について、今考えていることがあれば教えていただきたい。

○近藤 拓末（議長候補）

全代会では、ランダム面談を行っている。夏季休業中を目処に 1 回実施しており、「全代会に入ってみてどうか」「どのような活動が楽しかったか」「これからどのような活動がしてみたいか」などについて話すのだが、これを強化したいと思っている。例えば、議長に関していえば、委員長陣とは毎週顔を合わせているが、委員会ミーティングに行かない限り、全構成員と顔を合わせる機会は乏しい。そのような状況でどのようにして構成員のやりたいことを把握していくかといえば、直接その子に聞いてみるのが面白い方法だと思う。ランダム面談などで実際に聞いてみるという行為を増やしていきたい。先ほど申したように委員会に赴くことも行っていきたい。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。社会学類、森さんお願いします。

○森 望（社会学類）

同ページ、モチベーション把握の 2 つ目、委員会やプロジェクトのタスク量の把握について聞きたい。各委員会でプロジェクト分けされ、それぞれに積まれているタスクは基本的に委員長かプロジェクトリーダーがタスク量を把握していく事項かと思う。その点、どのような部分が委員長と異なるか。また、全委員会のタスクを議長が把握していくとなれば、委員長 9 人分の役割を果たしていくということになるが、その点どのように考えてい

るか。

○近藤 拓未（議長候補）

私がこの公約の中で一番重要だと思っていることは「構成員のタスク負担の軽減」である。しんどくなる前に助けたいと考えている。委員長がやりたがっていることはやればよいと思う。各委員もそうである。もちろん、やりたいことはどんどんやっていけばいいと思うし、委員会としてやらなければならないことも出てくる。その時に、やらなければならないことをどれだけ軽減できるか。そのために、委員長陣や委員を通じて、タスク量の把握や委員がどのようなことをやりたいかを把握し、その委員会でみながより輝けるように、やりたいことができるように努めていきたいと考えている。

○森 望（社会学類）

今の発言を受けて、もう少し確認したいことがあるがよいか。タスク負担の軽減について、やりたいことは率先してどんどんやっていってもらおうという話だったと思うが、「軽減」というと、やることを止めるというニュアンスにも受け取れるがいかがか。

○近藤 拓未（議長候補）

質問を確認させていただきたいが、タスク負担の軽減という言葉に対して、委員長や委員がやりたいことを止めるという方向に聞こえたということであっているか。

○森 望（社会学類）

そのとおりである。

○近藤 拓未（議長候補）

そのような場合もあるだろう。なぜかという、実際にやることで委員長がしんどくなると感じた場合は自分が止めなければいけないと思う。でもやりたいと言ったら、その範囲の中でどのようにやっていけるのかを考えていくべき。そのようなことも起こり得ると思うが、おおよそは委員長や委員がやりたいことをやるべきだと思っている。その原理原則は常に持っているつもりだし、持っていたいと思っている。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。人文学類、高橋さんお願いします。

○高橋 蓮（人文学類）

私から1点、スライド11枚目の他の構成員と関わる機会を増やすという項目について、具体的にどのように考えているか、教えていただきたい。

○近藤 拓未（議長候補）

他の構成員と関わる機会をどのように増やしていくかという点について、実現可能性がまだ高くないためこのような抽象的な表現になっているのだが、私自身、去年の 1 年間で全代会でしか遊べない遊び方をさせていただいた。大学で竹が採れるとは知らなかったし、バーベキュー場があることも知らなかった。そのようなことをせっかくなら、後輩のみなとも楽しんでいきたいし、それを通じて全代会の委員会以外の面も見てもらって楽しさに繋がればと思っている。それ以外にもたくさん機会を増やすことはあると思っており、例えば昨年度は 20 生入学式等で構成員がボランティアに参加して新しいコミュニティや繋がりが形成されたということも聞かし、全代会の談話室も活用していろいろなことができればと思っている。そのように積極的に機会を作っていくというイメージを持ってこのように書かせていただいた。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。生物学類、國崎さんお願いします。

○國崎 沙和子（生物学類）

manifestoのスライド 1、タスク負担の軽減というところについて詳しくお聞かせ願いたい。タスク量の把握を近藤さん自身が行うことと、タスク負担の軽減についてお話しされていたと思うが、ご自身のタスク量が増加してしまうことについてどのように考えているか。また、タスク負担の軽減について、協力を募集するなどやめる以外のタスク負担の軽減の方法について何か具体的に方策があればお聞かせ願いたい。

○近藤 拓未（議長候補）

まず 1 つ目の質問について回答させていただく。副議長のお二方や先輩方に手伝ってもらうなど、できる限り頑張っていく以上のことが言えず、申し訳なく思う。その上で対策方法を述べるならば、常日頃から委員会の活動状況を追っていけば、いつ忙しくなるかを把握できると思う。状況を事前に把握することで、活動の量を上手く調整し、負担を軽減していけたらと考える。2 つ目の質問をもう一度、お聞かせ願いたい。

○國崎 沙和子（生物学類）

負担の軽減について言及されていたと思うが、先ほど述べていた協力を募集する、プロジェクト自体を止めるという方法以外に、具体的な方法は考えているか。

○近藤 拓未（議長候補）

もちろん、やりたいことや、やることによってタスクの種類は異なるが、その中にも誰

でもできる仕事があると思う。そのようなものを自分自身、巻き取っていきたいと思っている。別に委員長でなくてもできることに委員長のキャパを使う必要はないだろうし、委員がやりたいことを差し置いてまでやる必要があること、もちろん状況にもよるが、無理しすぎることは互いにとってうれしくない。それを上から束ねる存在として、やる必要があることを手伝ってあげたいと思っている。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。社会学類、木下さんお願いします。

○木下 溪花（社会学類）

公約の中でタスク量の調整や構成員と関わる機会を増やしたいという話があり、総務委員長としてはうれしい限りであるが、すべて全代会内部に向けての話に感じた。全代会全体の方向性など、外部に向けてのビジョンがあればお聞かせ願いたい。

○近藤 拓未（議長候補）

対外的な目標、全代会を組織としてどのように伸ばしていきたいかについて、冒頭にも話したように、全代会は今様々なことを行っている。例えば、学生に一番関係するものといえば教育生活環境調査や、そのほかにも各委員会が様々なことを行っている。それが届いていないということは本当に残念であるし、届けたいとも思う。全代会が何をしている組織かわからないという表現をとることもあるし、とられることもある。しかし、単純に外から見たら知らない組織である。そのため、それを解決したい、一策を講じたい。これが対外的な組織としての目標である。

○木下 溪花（社会学類）

追加で質問させていただくが、昨年度の議長団も全代会を広報していきたいと努めてきたが、全代会自体に興味のない人には届かないという問題がある。もし、全代会自体がおそらくそんな組織だと思ってもらえるような方策があれば伺いたい。

○近藤 拓未（議長候補）

自分の中で、今の話を受けて2つ考えたことがある。1つ目に、内部の人が楽しんでいない組織は外から見ても楽しくないだろうと自分は思った。ゆえに、中の人を楽しむこと、楽しい組織だと思うことによって、それが結果的に外にも波及していくのではないかと思う。もう1つ、このように広報すれば、全学生に届くなどという革新的な考えが思いつくわけではないため申し訳ない。だからこそ、できることは全て全力でやっていきたいと思っている。届かないという現実を嘆いても仕方ないので、その中で何ができるのか、どういことができるのか常に考えて、その策を講じていく1年間にしていきたい。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。社会学類、綱木さんお願いする。

○綱木 映法（社会学類）

立候補されている近藤さん自身、1 年生の頃から様々な場所で様々な活動をされているとおっしゃっていたと思う。全大会の議長としては対外的な、組織の顔としての役割も持ち合わせると思うが、そのような顔としてご自身がふさわしいと思う能力や性質があればお聞かせ願いたい。

○近藤 拓未（議長候補）

対外的に組織の長として自分の能力がどのように活かせるかということであるが、まずはこのように 70 人くらいの前で話している自分をほめるところから始めていきたい。これも能力のうちと自分は思っている。このほかに、大人と話すときに怖じ気づかずに話することができる。職員と話すときも怖じ気づかずに話せる。自分の考えをしっかりと言葉を以て話すことができる。常に自分のやりたいことにまっすぐに生きている。これは、自分の信念をもって生きているということである。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

他に質疑等ある方はいるか。19 時 5 分までに出不ければ締め切らせていただく。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

質問がないようなので、投票に移る。

投票の流れは省略

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

投票の結果、信任 54、不信任 5。信任が 40 以上のため、今年度議長は近藤さんに決定した。おめでとう。近藤さんからご挨拶お願いしたい。

○近藤 拓未（令和 6 年度議長）

まずは長い時間議長選挙にご臨席いただきありがとうございます。信任いただいたことを恐縮に思う。本当にありがとうございます。今の率直な感想として、不信任 5 票はいただけない。恥ずかしい限りである。どのように挽回できるか、改善できるか、頑張っていければと思っている。本当にありがとうございます。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

議長について、今年度は近藤さんをお願いする。続いて副議長選挙を始める。事前に立候補した 2 名は前へ。

立候補順に従い澁谷候補から演説をお願いする。

（注：副議長演説は発言の意図を反映するため敬体とする）

○澁谷 耕大（副議長候補）

私はこの度副議長に立候補いたしました澁谷耕大と申します。

私は前年度、地球学類のクラス代表者会議（以下、クラ代会）議長を務めており、1 年生の頃からクラス代表者として活動しております。また全代会では、昨年度に全代会内部の情報インフラを管轄する総務委員会情報部門の部門長を務めておりました。また今年度は情報処理推進特別委員会の委員長を務めます。その他には Web ページ学生委員会の委員長を務め、全代会とは直接的には関係ないのですが、学生生活支援室という大学の組織で初代学生室員 4 人のうち 1 人であります。

私が目指すものとしては、大きく 2 つございます。

1 つ目は「クラ代会と全代会との距離を小さく」というものです。みなさん、1 年生も 2 年生も 3 年生も 4 年生もいらっしゃると思うのですが、オブザーバーの方を除いてみなさんは学類等代表である前にクラス代表者であります。ただし、現在の全代会では各クラス代表者と全代会とのコミュニケーションが行われていないと、この 2 年間全代会に所属していて強く感じたところであります。外部から見たら全代会とクラ代会の違いは全く分からないにも関わらず、コミュニケーションでロスが生じてしまっていることは問題だと認識しております。

1 年生の方もいらっしゃるので説明すると、クラス代表者会議の大きなタスクとして「クラス連絡会」というものがあり、ここでは学類の問題点や改善点等について話し合います。例えばこれは、昨年秋に私の所属する地球学類のクラス連絡会で扱われた議題です。このように、特定の講義が難しすぎる、総合学域群からの移行生のサポート方法は、教員とどのようにコミュニケーションをとればよいか、また教員の方からは、コミュニケーションとはいかが学生も TWINS の授業アンケートに答えてくれないではないかと、互いにコミュニケーションをとる重要な場になっています。もちろんこれは、学類の人にとって極めて役に立つ情報の塊といえるものです。

しかし、クラ代会ではこれを広報できるプラットフォームをほとんど維持できていない、または持っていないという学類がほとんどです。春日地区のクラ代会のように Web サイトを自前で持っているところもありますが、そのようにきちんとしたプラットフォームを持っているというのはほとんどないと言えます。例えば、地球学類には Twitter（現 X）アカウントは存在するのですが、2 つあるアカウントのうち 1 つは維持できないアカウントとなってしまうました。他にも Twitter のアカウントをきちんと使えているような学類は

少ないですし、さらには Web サイトとなるともっと少ないと思います。ところが、全代会を参照してみますと、私が管理に関わっておりました全代会の Web サイト、広報委員会が作成されている全代会の広報誌 Campus という紙媒体、@public_zdk というかなり強力な Twitter アカウントを持っています。こうした広報プラットフォーム、特に Web サイトをクラ代会に開きたいと考えております。こうすることによって、先ほど紹介したクラス連絡会や日頃のクラ代会で話し合われた内容といった、せっかく集まった学生の意見が共有されていないという状況を変え、そういった情報を学生として簡単に全世界へ発信していきたいと考えています。

クラ代会に Web サイトを開設することによる全代会のメリットについては、まず Web サイトに載せるコンテンツが充実することが挙げられます。次に、作成する過程で学類等代表と全代会の間で少なからずコミュニケーションが発生することです。そうすると、今その学類で何が起きているか、何が問題なのかということについて、何度も 26 学類の代表を集めて面談するよりも低コストで把握することができます。また、こちらご覧になったことのある方もいらっしゃるかと思うのですが、私が総務委員会情報部門の部門長だった時に提案して始めたものになります。元々全代会の広報誌 Campus には、本会議で行った内容を簡単に記載する欄があったのですが、これを Web サイトに公開するようになりました。この背景には、正式な議事録を作成するまでに時間がかかるという事情もありますし、何より検索サイトで検索しやすい。みなさん、Google や Bing を使っていない方はいらっしゃると思います。そういう人たちがわざわざ全代会というよくわからない場所にメールをして議事録を開示するよう要求しなくても情報が公開されている、クラ代会に「これどうなったの」と聞かなくてもスマホやパソコンで検索すればいい、そういった全代会にしていきたいです。

2 つ目は、「効率化の継続、向上」です。私は内部の情報環境を扱う総務委員会情報部門に所属しており、情報処理推進特別委員会（以下、IPC）という全代会の外を向く情報系の委員会には立ち上げの時から参加しています。「情報の力を使った効率化」を全代会、ひいては学内にもたらしたいと思っています。こちらは先日の研修会でも扱った委員会が何個かあるためご存知の方もいると思いますが、esa というツールを全代会では使用しています。2021 年の 11 月から使用していきまして、様々な利点が存在していました。私は情報部門長として利用を促進とスライドに示しましたが、どういうことかと申しますと、こういうことになります。esa は先述の通り 2021 年 11 月から導入されています。導入されたばかりの頃はそれなりに利用されていました。八十数ページくらいだったものがそこからずっと低い状態が続きます。ただし esa はとても便利だと個人的に思っていました。そこでまず情報部門長になった際に、委員長たちに esa を使ってみたらどうかと提案しました。グラフからも私が情報部門長になったとたん利用が急増しているのがお分かりになるかと思います。先ほどスライドに写したのですが、委員長だけでなく各委員の方に esa の良さを知ってもらおうとして「esa、どこが嬉しいの？」というタイトルで 20 分くらい

のプレゼンを、委員会の活動が行われている時間にお邪魔して行わせていただきました。その結果、もちろん夏休み等で十分落ち込みはあるのですが、このように広げる前に比べてかなり大きい使われ方をしています。グラフ上 4 月は 19 日までとなっているのですが、4 月 30 日の時点では 51 ページ、本会議が始まる前に確認したら 5 月だけで 19 ページが作成されています。

何が嬉しいかというと、各種議事録の検索やリンク化が可能になります。全代会内部のみにはなりますが、昔話された会議の議事録がどのようなものか分かるようになっていきます。またホワイトボード代わりになります。最近は多くの委員会で導入するようになったかと思うのですが、複数人で同時編集することで今何を話しているのかということが明確になっています。また今も行われています本会議の議事録の下書き、短報のもとにもなっているものを esa に残していて、まさに今総務委員の方が複数人同時編集で分担して下書きを行っています。

他にも小さなことで、私が直接関わったものではありませんが、Teams のチャンネルをシステムティックにしました。システムティックにするとおのずと整理されます。整理しようと思って整理するのではなく、デザインから、使っているだけできれいに整理される世界に近づけるようになりました。例えば宿舎エリア新構想プロジェクトについて扱っている Teams のチャンネルがあると口頭で話しているときに、番号がなければ非表示チャンネルに並んでいるものの中から探さなければなりません。しかしこの番号があることで、「ああ 413 ね」というようにわかりやすくなっています。さらにこの番号はソートされているのでとてもわかりやすくなっています。

将来的には、かなりざっくりしたものになりますが、情報部門長の立場としては Teams 上におけるファイル共有手法を改善し、IPC 委員長として学生団体プラットフォームの制作・維持を行っていきたいと考えています。他にも便利で安全な情報環境を探究していきたいと思っています。

最後にまとめとなりますが、全代会とクラ代会の距離を小さくすること、そして効率化の継続・向上をしていきたいと思っています。

以上となります。副議長候補の澁谷耕大でした。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

ありがとうございます。続いて桑原さん演説の方をお願いします。

○桑原 侑（副議長候補）

全代会副議長に立候補いたしました、国際総合学類 2 年の桑原と申します。よろしくお願ひします。

自己紹介はこちらのスライドに書いてあるとおり、今は国際総合学類のクラス代表者会議の副議長をやっております、去年は総合学域群のクラス代表者会議の議長をやってお

りました。所属している委員会は生活環境委員会と新入生歓迎特別委員会です。ちなみに平砂の宿舎2年目です。

私が副議長になってやりたいことは、簡単に言うと、橋になりたいということです。全代会の内外には、そのまま何もしないで放っておくと、溝や距離ができてしまうようなものがあると思っていて、その間の隙間を埋める、もしくは橋を架ける、そういったことを副議長としてやりたいと思っています。こちらが橋になって繋ぎたいものの例となります。

例えば「議長団と委員長を繋ぐ」ということを考えた場合は、先ほど近藤さんが議長として選出されましたけれども、議長の考えを具体化して委員長に提案する。また委員長はほとんど2年生なのですが、私も同じ2年生としてサポートする。そういったことを考えています。

「全代会とあなた」を繋ぐ、全代会の構成員を繋ぐということを考えると、委員会を定期的に巡回して皆さんがどんな感じで活動しているかを見回り、気軽に相談に乗れる副議長になり、本当に皆さんが委員会の壁を越えてやりたいことをやれる環境を作っていきたいと思っています。

3番目、「全代会と全代会の外側」を繋げると考えた場合は、全代会にこれまであまり含まなかった、もしくは含まれづかったものがあると考えています。例えば総合学域群の移行生、3年生から入ってくる編入生、学群のプログラム生、大学院生、留学生、そして障害のある方、そういった方々が、多分これまで全代会の意見にあまり反映されてこなかったと考えています。そういった方々を全代会に取り込んでいく、もしくは意見を聞いていく。そういうことによって全代会の全学としての意見に、そういった方々を含んでいくということをできればしていきたいと考えております。

取り組みたいことはいくつもありますが、その中でも特に私が副議長として行っていきたいと考えていることがこちらです。「全代会の今と未来を繋ぐ」、つまりは全代会の持続可能性を確保するということです。

例えばこちら3つ挙げていますが、1つ目は全代会の中長期的な活動目標を定めることです。実は全代会では明確な活動目標が定められておらず、「学生の意見をまとめる」と学則にある程度です。目的がない組織はかなり不安定だと思います。私が副議長になったらすぐに取り組みたい問題がこれで、長期的な目標を定めることによって、安定した組織、しっかりとした組織にしていきたいと考えております。

そして2つ目、組織制度の整理です。私は全代会法制局プロジェクトというものに参加したりしています。そのようなこともあり、規約について学長決定・副学長決定という学則や全代会の内規、運営規則の改正を通じて組織としての基盤を固めていきたいと考えます。

3つ目、他の学生組織の持続可能性についてです。学生組織、例えば学園祭実行委員会や三系すなわち文サ芸サ体育会、あとは新入生歓迎委員会などがありますが、そういったものの持続可能性が残されないと、全代会の持続可能性もどこか危ういと私は考えていま

す。そのため、そういった他の学生組織のサポートも副議長として行っていきたいと考えております。

同時に私が特にやる気を入れて取り組んでいきたいと考えているのが、大学が進めている事業に学生の声が届けるということです。

こちら 3 つ例をまた挙げていて、1 つ目がマレーシア分校についてです。マレーシア分校は今年度 9 月にできますが、その学生組織の活動や課外活動に何かしら問題が生じるのではないかと考えていて、その問題の解決に主軸となって取り組んでいきたいです。

2 つ目が未来社会デザイン棟についてです。平砂共用棟が今度新しく未来社会デザイン棟になるという構想がありますが、その棟の運用について考えていきたいです。

3 つ目は宿舎リニューアルです。宿舎もリニューアルされる予定がありますが、そこでリニューアル案の検討に学生が参加するという動きを推進していきたいと考えております。

他にも、今は時間の関係であまり詳しくは言えないのですが、委員会と委員会、学類等と学類等、全代会と全代会には参加していない一般学生を繋げる、それを通じて個人のレベルでも組織のレベルでも取り残しをなくす、もしくは減らす。そういったことをしている架け橋に私はなりたいと考えております。

ぜひ、副議長として活動させていただきたいのでどうぞ信任のほどよろしく願います。ご清聴ありがとうございました。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

これより質疑応答に移る。2 人まとめてでも片方を指名しても構わない。何か質問意見等ある方がいたら挙手をお願いする。

○相川 大惺（医学類）

澁谷候補に質問する。Web サイトをクラ代に開きたいということであったが、肝心な Web サイトの管理をどのようにするのかということについて具体的なプランがあれば教えていただきたい。

○澁谷 耕大（副議長候補）

Web サイトの管理は現在少し複雑な形になっていて、総務委員会情報部門と IPC と広報委員会が共同で行っている。あまり確定したことは言えないが、個人的には委員長の方々にこのような記事を掲載したいというものを書いてもらい広報委員会の許可が下りたら掲載という形を想定している。

○相川 大惺（医学類）

広報委員会が主に運営するという認識でよいか。

○澁谷 耕大（副議長候補）

あくまで全代会の Web サイトであるので、全代会で運営しつつクラ代にコンテンツを供給してもらう。クラ代会のキャパシティが大きくないことを鑑みてそのような形がよいと考える。

○相川 大惺（医学類）

桑原候補に質問する。議長団や全代会の橋渡しをしていきたいとおっしゃっていた。全代会が外部と活動するときに先陣を切りたいということだと思うが、全代会や議長団が外部に行くすべての活動に携わると業務が過剰になると思うが、そのあたり工夫は何かあるか。

○桑原 侑（副議長候補）

今までは全代会と外部のつながりが強くなかった。議長団であれば、毎週大学の職員方とランチミーティングという話し合いの場が設けられていたり、三系の方と話し合う場があったりと、安定してつながりがあるものは保つことができる。そうでないものは例えば、学園祭実行委員会が負担を抱えていて実現可能性が低いといったところを支えたい。ほかにも新歓の準備や新入生歓迎委員会の連絡を円滑にしてサポートするという形で、今までつながりが薄かったところの橋となり全代会と外部をつないでいきたい。

○森 望（社会学類）

まず、両候補共通の質問であるが、全代会と外側というところで共通の指針と見えるが問題ないか。

○桑原 侑（副議長候補）

問題ない。

○森 望（社会学類）

関係改善というところであるが、現在でもクラ代会と全代会のつながりは程度に差はあるものの、存在する。そのような中でどうすれば良いと思うか事例をもとにお聞かせ願いたい。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

もう一度簡潔に質問願いたい。

○森 望（社会学類）

今までも関係はあったが、現状をどうみてどう評価するか、今後どうしていきたいか、

聞きたい。

○澁谷 耕大（副議長候補）

具体的な事例を、と言われても、というのが正直なところである。現状学類代表ときちんと話す機会が新歓期の面談のような場しかない。恒常的にクラ代会で何をしたとか、クラ連会で何をしたかったとかそういったところが弱いと感じている。例えば学生生活室員としての活動の際にはそういった話が具体的に取り上げられる。クラ連会で何が話題になって教職員側からどういう返答があったか、これは全学に諮ってほしいといった内容である。2年生以上の方にお聞きしたいが、全代会内部でそういったことをした記憶のある方は少ないのではないかな。そういった、クラ代と全代会で分かれている情報や全代会でやったほうがいいことはどうしてもあると思う。全代会と一般学生という構図がよく使われるが、それに加えてクラ代会との連携を強めていくことが必要であろうかと思う。

○桑原 侑（副議長候補）

私がクラ代会と全代会をつなぐためにやるべきと考えていることがある。今みなさんは学類等代表であるが、ちょうど代表の方がいるのであれば相互の交流によってつながりが生まれるのではないかな。例えば私は昨年度は総合学域群の代表であったが、総合学域群であることもありクラ連会で扱う内容がどうしても全学的なものになることが多かった。私が主体となって、教育環境委員会と共同でアンケートの作成を主導してきた。このように、状況に応じて委員会とクラ代会をつなげることができればいいのではないかな。Teams の中のチャンネルでも「クラス代表者会議の交流」という場がある。対面でもクラ代会の内容を報告するだけでも参考にしようなどという意識も生まれるであろう。

○森 望（社会学類）

こちらが抽象的な質問をして申し訳ない。答えていただき感謝する。

続いて個別の質問に移る。まず澁谷候補にお聞きする。クラス代表者会議の広報手段について、全代会の HP 等のツールを間接的に利用するというのは各学類が直接的に SNS を触るよりも参入のハードルが高いのではないかな。SNS アカウントであれば毎年〇年度何学類代表者会議という形で作っては捨てて、を繰り返すことができる。学類新歓においてはそれを行っている学類が多く、一定程度の成果を上げられていると感じている。例えば今年度社会学類では新歓として社会学類の新入生向けに情報発信を行ったが、これが地球学類などほかの学類の1年生にも役に立ったという声を聞いている。こういった、ひとつのものを維持しない形でも役に立つのではないかなと思う。これについて、クラ代から全代会へ向けての情報発信しやすい方法の構想があればお聞きしたい。

○澁谷 耕大（副議長候補）

後半の質問の意図を汲みかねている。私も SNS アカウントはフロー的な情報を拡散するという点においては強い意義があると感じている。しかしながら、SNS プラットフォームを活用した広報手段には問題がある。私は演説に用いたスライドにおいて検索エンジンで検索できる利点を書かせていただいたが、今の情報ではなく過去の情報を参考にしたいという場面が往々にしてある。たとえば、今年ある講義が難しく感じられたときに、昔から難しかったのか今年だけ難しかったのか。学類にもよるがこのような内容はクラ連会でも話される。このように昔の情報が知りたいときに、作っては捨て作っては捨て、管理されていないアカウントの情報を SNS のプラットフォームの中から探すのか。そういったわけではないかと思う。確かに参入するハードルは SNS よりも高いかもしれない。しかしながらそれ以上の価値がある。フローな情報ではあるものの SNS と比べてストック的な情報であり後から検索できる。なおかつ全代会という組織により維持されているプラットフォームに軸足を置くことは極めて有用であると考えます。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

他の学生の質問時間もあるため、今後は端的に質問するように。

○森 望（社会学類）

桑原候補に質問する。全代会外の学生団体の持続可能性の確保とおっしゃっていたが、現状持続可能性が危ぶまれる組織があるのか。先ほど学園祭実行委員とおっしゃっていたが、答えられる具体的な存続の危機があればお聞かせ願いたい。

○桑原 侑（副議長候補）

学園祭実行委員は特定の局に負担がかかっている。実際に副委員長から話を聞いている。ほかの組織だと三系なども、特に新歓に関しては三系が機能していれば全代会及び学園祭実行委員会がリソースを割いて協力する必要はなかった。そういう意味でも三系を立て直す必要がある。新歓祭や学園祭の負担が大きくなっている今だからこそ、持続可能性について検討をし、対策を打つ必要性がある。

○岩渕 泰知（社会工学類）

澁谷候補に質問する。Web サイトについての質問で恐縮であるが、スライドの 5、6 ページについて、今ある全代会の HP にぶら下がる形で 26 学類の HP ができるという認識でよいか。

また形態としては、コンテンツをクラ代が考えて送り、技術的な面は広報委員会が行うという形になるのか。

○澁谷 耕大（副議長候補）

後者についてはそのような認識でよい。クラ代に Web サイトの管理まで任せるとなるとクラ代にとっても負担になるし、全代会側も 26 学類分管理するものが増えてしまうので、お互いのためにもそのような形になるだろう。

前者については NO という回答になる。全代会はあくまでプラットフォームを提供するだけであり、情報を発信したいところが出していただければと思っている。例えば地球学類の固定ページを作り継続的にコンテンツの提供を依頼する、というわけではない。地球学類のクラス連絡会でこんな内容が話し合われた、というように単発で提供していただければと考えている。全代会 HP 上の News がイメージに近い。そこにおいては例えば学長懇が行われました、ということで写真や話し合われた内容が掲載されている。そのような内容のものをクラ代にも掲載してもらえたらと考えている。

○岩渕 泰知（社会工学類）

もう一点質問がある。先ほど SNS は見てもらえるが過去の情報を参照することが難しいということであった。それについてはその通りで、Web サイトは過去の情報をさかのぼれることが利点であるのは確かだと思う。

しかし恥ずかしい話だが、全代会の Web サイトの存在を今知った。せっかく Web サイトを作っても、閲覧数が少ないと残念である。それに対し X アカウントは比較的閲覧数が多い。この間火曜日が月曜日課であるという告知はインプレッションが 4000 ついていて、これのおかげで授業を逃さずに済んだ人も多いと思う。要するに、作った Web サイトを見てもらえるような工夫か、そもそも閲覧者がこれだけいるから問題ないといった情報があればお聞きしたい。

○澁谷 耕大（副議長候補）

それについては耳が痛い話である。全代会の Web サイトは決して多くの人に定常的に見てもらっているわけではない。確かにアクセス数が急増することはあるが、それは単発の情報が載るときだけである。例えば 20 生入学式だとか、International Day であつたりだとか、そういう情報を掲載したときはアクセス数が一日で数百になる場合もある。それ以外の日は一日 50 から 60 回見られればよいという状況である。

ただ、Web サイトを広報するのは難しい。Web サイトを単体で宣伝するのではなく、内容を宣伝するのが本質であろう。広報委員会の考えもあるのでなんとも言えないが、個人的には各クラ代の情報が載ると学類 LINE などでは広まると思う。こうした地道な方法によって広げていく形が現実的でコストも低く、効果もあると考えている。

○國崎 沙和子（生物学類）

私は学内行事委員長を務めている。三系や学園祭実行委員といった学生組織の名前が聞こえてきたので桑原候補に伺いたい。学内行事委員会は学生組織と繋がりが強いと自負し

ている。全大会の外と中をつなぐ上で学内行事委員会に協力を仰ぐようなことはあるか、委員会と一緒に携わることはあるのかどうかについて教えていただきたい。

○桑原 侑（副議長候補）

初めの質問をもう一度お聞きしたい。

○國崎 沙和子（生物学類）

すでにあるつながりをどう生かすか。新たに学内行事委員会が行うことはあるのか。具体的にあればお伺いしたい。

○桑原 侑（副議長候補）

委員会を利用するという点では、学園祭実行委員会の様々な形、例えば学園祭実行計画書の校閲や、予算会計の校閲など、そのようなことを学内行事委員会にチェックしてもらうために何か月もかけている。その負担が大きいと自分は感じており、どのようにすれば良いかを考えていきたいと思っている。学園祭実行委員会と学内行事委員会とが一緒に話し合う場を作りたい。そのために、今あるつながりを大事にしていきたいと思う。

また、新入生歓迎委員会が今年度新しくできたことで三系が鈍化し、全大会や学園祭実行委員会の負担になっている。三系とも連携し、問題の解決ができるよう一緒に頑張っていきたい。

○石井 遥（生物学類）

澁谷候補に質問する。スライドに記載されている「全世界に発信する」という点について、Web サイト上にてクラス連絡会で話し合われた内容などを公開するという意味だと捉えているが、全世界に情報を公表するとなると具体的なところや詳細については伏せなければいけないこともあると思う。そうすると全大会としては、各学類が課題だと考えていることの詳細が把握できなくなるのではないか。クラス連絡会で協議された内容を学生だけでなく全世界に発信するメリットは何があるのか。

○澁谷 耕大（副議長候補）

「全世界」というのは大げさな発言であった。全世界に発信しようというのではなく、結果的に全世界に発信してしまうというくらいのニュアンスであった。逆にお聞きしたいのだが、学生だけのプラットフォームはどのように作るのか。学生単体で、内輪で情報を流す方法は限られているのが実情である。確かに方法がないこともないが、広報誌である Campus に載せる情報の選別以上に時間がかかってしまう。そうした中で具体的に現実的な解決策としては Web サイトに掲載するのがよいというのが私からの提案である。

伏せなければならない情報が出てくるというのは正しい指摘である。そのような情報が

出た際は、事前に全代会内部に伝えていただくことになり、公開する時点で何かしらのコミュニケーションをとることになるだろう。そのようにして解決していけばよいのではないか。

○高橋 蓮（人文学類）

桑原候補に質問する。スライド 4 枚目に書いてあった「全代会の活動目標（中・長期的）を定める」について、具体的に考えはあるか。また、その目標は全代会で立てるのか、委員会ごとに立てるのか。

○桑原 侑（副議長候補）

全代会全体の活動目標を想定している。基本的に目標は全体で決めるのであり、私の考える目標がそのまま全代会全体の目標になることは、民主的な観点からも望ましくない。ただ、個人的に考えていることとして、全代会の目標としては「学生の意見をまとめる」程度にしか定められておらず、それは本会議としての全代会の目的でしかない。執行機関としての全代会の目標、簡潔に述べると「筑波大学の先生方とより協力するぞ」というような、実務的な面での目標があるとよいと考える。

委員会レベルの目標については、基本的に各委員会委員長の判断に委ねる。もちろん委員会ごとに委員長が目標に沿って、見通しをもって進めることができるという意味ではぜひ委員会ごとに目標を立てていただきたい。そのお手伝いはさせていただく。

○高橋 蓮（人文学類）

続いて 2 点目の質問に移る。桑原候補のスライド 5 ページ目の「大学の進めている事業へ学生の声を」という箇所について、現時点で学生の声を全代会へ届ける手法として教育生活環境調査などの方法があると思うが、現時点の手法で問題と思う点、変えるべき点を教えてほしい。

○桑原 侑（副議長候補）

現在行っているのは、受動的な意見の集め方である。教育生活環境調査について、X で発信はしているが、回答が押し寄せるのは一時的なものであり、澁谷候補もおっしゃっていたように HP のアクセス数にも限りがある。今学生から意見を集める方法としては教育生活環境調査しかないのが現状である。その他に意見を収集する方法を私が「橋渡し」として行いたい。例えば、一般学生にオブザーバーとして本会議に参加してもらうことや、委員会活動を見学し意見を述べてもらうといったことが考えられる。クラ代会と全代会をつなげるという点では、身近な問題をクラ代を通して吸い上げることができる。クラ代会やクラス会は一般学生に密接な組織であるので、クラ代会と全代会のつながりを強くすれば、持続的に意見を吸い上げることができるのではないか。

○高橋 蓮（人文学類）

1 点気になったのだが、学類と全代会とのつながりにはクラス連絡会を使うのか。

○桑原 侑（副議長候補）

クラス連絡会は各学類の職員組織とクラ代をつなげるものである。クラス代表者同士の意見交換を通じて、全代会とのつながりができれば良いなと思う。

○梅本 結（地球学類）

澁谷候補に質問する。何度も申し訳ないが、Web サイトに関してお聞きしたい。目指すものとして、全代会とクラ代会の距離を小さくということが前提になるが、聞いた限りだと広報向けの情報と、クラ連会で行われている内容を把握したいという内部向けの情報が混ざっているようにお見受けした。コンテンツをクラ代会に要求するという点や SNS を用いることは、広報的な色が強い。一方で検索にかかりやすくするという面では、過去の情報を参照するというメリットを挙げられていたが、先ほど質問があったように情報がある程度隠さなければならないということに関して、短期的なコミュニケーションが増えるという理由だけで目をつぶってしまっただけでは Web サイトを開くことのメリットが見いだせない。

クラ代と全代会の距離を縮める、特に全代会がクラ代の動きを把握したいということであれば、Web としてある程度情報に制限をかけて公開するよりも、見られる人がある程度制限される Teams 上でクラ代から共有してもらった全資料を見られる方法が理にかなっているのではないかな。

○澁谷 耕大（副議長候補）

たしかにもっともな意見である。ただ、全代会とクラ代の距離を小さくというのは、全代会とクラ代 2 つの連携を意図しており、全代会とクラ代を学生がまぜこぜにしていると言うと悪く聞こえるが、個人的には、双方学生であるという立場のもと、まぜこぜになっただけでも悪くないのではないかなと思う。

学類等代表から書類を作成して提出してもらうのは正しいと思うが、個人的には各クラ代の意思を尊重したい立場である。特定の Word 文書に入力しろといった指示はしたくない。ここにいる皆さんは少なからずクラスや大学を良くしたいという思いを持たれていると思うので、こちらからプッシュするのではなく皆さんに自主的に動いていただき、こちらはあくまでも情報を頂くという立場でありたい。

○吉川 椋（工学システム学類）

澁谷候補に質問する。梅本と被る内容になるが、全代会とクラ代の距離を小さくという

点に関して、澁谷候補が所属している地球学類はクラ代会が活発だからプラットフォームを動かせると思うが、そもそもあまり動いていない学類に対してはどのようなアプローチをとって全代会との距離を縮めるのか構想があればお聞きしたい。

○澁谷 耕大（副議長候補）

地球学類のクラ代は活発だとありがたいことに多くの人に認められている。残念ながら活発でないクラ代会が存在することも知っており、そういった学類とコミュニケーションを取ることが難しいとも感じている。これについてはこうした方策では解決しないと思っており、別の方策をとる必要がある。クラス連絡会を開くことすらままならない学類には全代会の方から働きかけて開催してもらっており、それを継続すればよいと思っている。ここにいる皆さまがそのような気持ちを持っていないと私は信じているので、あまり心配はしたくないというのが正直な気持ちである。

○綱木 映法（社会学類）

桑原候補に質問する。演説の中で、例えば障害のある方等の意見が全代会に反映されていないという問題を指摘されていたが、実際にそれに対応する取り組みがされているのか、また今後どうやって対応していくのかという具体例をお聞きしたい。

そもそも全代会という組織が障害のある方や留学生にとって、高尚で関わりにくく関与するのが難しいのではないかと思うが、それについての意見もお聞きしたい。

○桑原 侑（副議長候補）

障害のある方々や留学生を全代会に取り込む動きはあった。留学生については国際特別委員会が主体となって全代会構成員として受け入れている。

障害のある方についてはそういった取り組みを聞いたことがない。自分の体験になるが、昨年ペDESTリアンデッキのぼこぼこした道を直すという議題が本会議で取り扱われたことがあったが、そういった時に障害のある方の目線があるともっと意見が強くなると思った。団体の中に取り込むというのはもちろんのこと、BHE と協力してそういった方々と全代会構成員とが話し生の声を聞く機会を設けて意見を全代会に取り込んでいくことが必要かと思う。

編入生については突然クラ代になること自体が異例であるため、制度面から変えていく必要がある。学長決定や副学長決定の改訂も視野に入れる。

○綱木 映法（社会学類）

ご回答感謝する。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

時間の関係上、次に挙手された方を最後の質問としたい。人文学類高橋さんが挙手されたが、最後の質問者としてよろしいか。異論が認められないため、質問をゆるす。

○高橋 蓮（人文学類）

澁谷候補に質問する。HP 上に上げる情報について、クラス連絡会の情報だけでは情報が少ないように思う。学類単位でクラス連絡会において出た課題に対する取り組みを上げることが必要ではないか。

○澁谷 耕大（副議長候補）

それについては各学類の判断に委ねたい。全代会にも責任はあるが、本当に良くない情報以外は弾きたくない。各学類がプラットフォームに載せたい情報を載せられれば良いのではないかと考えている。

○高橋 蓮（人文学類）

桑原候補にも質問する。スライドで全代会の構成員と桑原さんがコミュニケーションを取って意見を収集していくとあったが、構成員から意見を聞いた後具体的にどのような行動をしていきたいか。

○桑原 侑（副議長候補）

意見を持っているということはやりたいこともあるということだろうと推察する。やりたいことを委員会の枠組みを越えプロジェクトという単位で「この指とまれ」形式でやりたい人を募り、私も関わりつつ進めていきたい。

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

時間も押しているため、投票に移りたい。先ほどと同様に、手元に投票用紙があると思う。候補者の氏名の下に信任の場合は○を、不信任の場合は×をお書き願いたい。オンラインの方も先ほどと同様に、オンラインの方のみ投票権を付与したフォームを作成した。そこから投票願いたい。手元に投票用紙がない方がいたら挙手願いたい。いないか。

（投票の手続きは省略）

○林 凜太郎（令和 5 年度議長）

投票の結果、澁谷候補は信任 55、不信任 3。桑原候補は信任 48、不信任 9、白票 1。どちらも信任が 40 票を越えているため、令和 6 年度副議長は澁谷と桑原に決定した。

委員会報告

○林 凜太郎（令和5年度議長）

続いて、諸連絡に移る。まず、総務委員会の木下から委員会報告を始める。

○木下 溪花（総務委員長）

総務委員会の中でみなさんに関わる活動を告知する。まず何かを管理するための棚など、欲しい備品がある際は物品申請として、名刺の増刷や肩書の変更を依頼する際には名刺作成として依頼してほしい。また、全大会の備品を購入した時の領収書を総務委員会に渡すようお願いする。

以上の連絡は Teams の 003.101a-総務委員会への問い合わせチャンネルまで連絡するように。上級生の方で研修会の際の飲食代のレシートを持っている人は総務委員会に渡すようお願いする。

5月10日（金）から活動始める。

○田口 瑛啓（総務委員会情報部門長）

総務委員会の情報部門に対する問い合わせは、Teams の 003.101i-情報システム関連の問い合わせチャンネルまで連絡してほしい。5月10日（金）の総務委員会のミーティングで esa のアカウントを発行するので確認願う。また、各委員会を訪れ、esa の講習会をする予定である。

○國崎 沙和子（学内行事委員長）

今週はミーティングを行っていない。次回のミーティングは5月14日（火）である。

○江添 由（教育環境委員長）

5月10日（金）のミーティングの出欠に関する投稿をした。回答よろしくお願いします。

○高橋 蓮（生活環境委員長）

教育生活環境調査へのご協力感謝申し上げます。5月9日（木）にミーティングがあるので委員は参加願う。

○坂入 快（調査委員長）

初回のミーティングを5月13日（月）に行う。

○榎本 陽子（広報委員長）

Campus 宿舎祭特別号についての取材を行う。初回ミーティングについては Teams を確認するようにお願いする。

○吉川 栞（国際特別委員長）

5月9日（木）初回のミーティングを行うので興味のある人は参加してほしい。

○澁谷 耕大（情報処理推進特別委員長）

5月11日（土）にショートプレゼンテーションの大会があるので興味ある方は参加してほしい。情報処理推進特別委員会に興味がある方は、初回ミーティングに参加願う。

○林 凜太郎（令和5年度議長）

これ以降の本会議については、今年度の議長団から連絡が行くので、そちらを確認願う。昨年度の協力に感謝申し上げます。これで第一回本会議を散会する。

散会

以上 総務委員会 木下、綱木、老松、森作成